

遠江・山と里の民俗

会報 第021号

ご挨拶



浜松市長 中野 祐介

浜松は、豊かな自然、厚い産業基盤、温暖で暮らしやすい気候風土をはじめ、様々な面でもどこにも負けない魅力があり、大きなポテンシャルを持つ地域です。民俗芸能に目を向けると、正月行事の田楽や、盆行事の念仏踊り、農村歌舞伎などの多様な祭礼・芸能が継承されています。国県市による指定または選択の無形民俗文化財は十六件、また、四十六件の無形民俗文化財が浜松地域遺産として認定されています。

浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会が設立から十

年を迎え、民俗芸能の保存と継承の活動を推進されていることに敬意を表します。市内十九の保存会で発足した本連絡会は、二〇二三年に二十二団体になりました。

二〇二〇年から新型コロナウイルス感染症が社会に大きな影響を与え、民俗芸能を神事のみで実施した地域、住民限定として実施した地域、やむを得ず中止し



7月15日遠州大念仏（中区鹿谷町 犀ヶ崖）

た地域など、それぞれの保存会が重い決断をされました。このような厳しい状況の後、ようやく活動を再開する団体が増えてきた背景には、本連絡会における団体相互の情報交換や発信の活動があったと考えます。しかしながら、過疎化、少子高齢化の進行によって、特に中山間地域での後継者不足が顕著であり、後継者や支援者の育成や確保など、継承への仕組みづくりが急務と認識しています。市としては、二〇一六年制定の「浜松市民俗芸能の継承及び振興に関する条例」



5月5日犬居のつなん曳（天竜区春野町）

及び二〇二二年度策定の「浜松市文化財保存活用地域計画」に基づき、本連絡会との協体制の充実を図るとともに、小・中学校、高等学校、大学との連携を深め、次代への担い手育成に努めているところです。これからも浜松の都市の将来像である「市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』」の実現に向け、貴重な無形民俗文化財を将来の世代にしっかりと継承して地域活性化に活かすために、市として本連絡会の活動を支援してまいります。各保存会の活動が一層



8月13日滝沢の放歌踊り（北区滝沢町 林慶寺）

充実するとともに、本連絡会が大いに発展することを期待します。

理事会・総会を開催



静岡文化芸術大学にて総会

六月三日（土）に引佐協働センターにおいて浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会理事会を開催し、六月十五日（木）静岡文化芸術大学において総会を開催しました。総会の開催は四年ぶりとなり、連絡会に「賀久留田楽保存会」が新たに加入し、池谷会長から挨拶がありました。加盟団体の各会長から、コロナ後久々の開催となる今年の祭りへの意気込みなどが語られました。

舞阪大太鼓まつり

舞阪郷土資料館

荒熊元茂

はじめに

舞阪は浜名湖の湖口（今切口）の東側に位置する、漁港がある町です。江戸時代には東海道の宿場でした。大太鼓まつりは町中央の「お山」と呼ばれる小高い丘（標高約5m）に鎮座する岐佐（きさ）神社の祭礼で、氏子の旧舞坂宿



四町（西町・仲町・砂町・新町）が町内安全・海上安全・大漁を祈願して催します。

神輿の渡御が行われ、お山と東に1kmほど離れた稲荷山（白王稲荷神社）の間を往復し、四町の大太鼓と手踊りの屋台がお供します。昭和の初め頃から大太鼓が祭りの呼び物となり「大太鼓まつり」として知られるようになりました。

岐佐神社

式内社に比定されている岐佐神社の創建地は現在の場所ではなく、一四九八年（明応七年）に起きた明応の地震による津波で現在地に小神祠が漂着し再興されました。

祭神

蛭貝比売命（キサガイヒメノミコト）と蛤貝比売命（ウムギヒメノミコト）の二神が祀られています。蛭貝は赤貝のことで、社名の由来になったと言われています。

祭礼日

旧暦九月一五日が江戸時代の早い頃から祭礼日でした。この日は満月、明るい夜は漁には不適で休漁とされました。そのうえ月明りは灯火の代わりに闇夜を照らしてくれるので、漁業の町の祭りには最適な日です。

明治の初め、太陽暦が採用された頃に一時期変わりましたが、数年で復されました。その後、長い間固定されて来ましたが、二〇二〇年（令和二年）から旧暦九月一五日の後の日曜日に変更されました。近年祭りに参加する人が少なくなり、参加しやすい日曜日が採用されました。

神輿の渡御

江戸時代後期の一八二一年（文政四年）に神輿が作られました。江戸から伝えられ成功した海苔養殖の収益が当てられたと思われず。

一八七〇年（明治三年）の神事祭礼執行届に「十五日昼同村之内末社稲荷社迄神輿巡行於同所御旅所之神事仕同日夕方還幸奉可仕候但氏子之者笛吹太鼓打囃子御供可仕候」とあり、遅くとも明治初年までには現在の祭りの形（神輿の渡御と太鼓のお供）が整えられました。

大太鼓の誕生

明治時代に入ると歌舞伎狂言は次第に衰退し、代わって太鼓による祭囃子の練りが盛んになりました。多様な太鼓囃子が練られるようになると、やがて四町は互いに太鼓の大きさを競うようになりました。

明治時代は直径二尺（約六一cm）、大正時代は四尺（約一一二cm）、昭和初期は六尺（約一一二cm）、昭和一〇年代には七尺二寸（約一一八cm）となりました。ちなみに、現在最大の大太鼓は七尺八寸（約一三六cm）です。

祭りの組織

祭典は旧舞坂宿四町の年番制によって支えられています。年番制とは、祭りの一切を取り仕切る「年番町」を四町が一年交代の輪番で務めるものです。

組織は氏子総代―後見―青年・中老・年行司で、各町に設けられ、それぞれ独立しています。

年番町の氏子総代は祭典委員長として祭典全体の総責任者を兼ねます。

特に重要な役割を担うのが年番町の青年支部長です。「年番支部長」と言われ、祭り全体の進行を司ります。

四町の組織を統括する会合に「四町割（よちょうわり）」があります。四町の祭典委員が一堂に会して、祭典について審議・決定する場で、祭典委員会とも言えるものです。

河西訓導を偲ぶ献花式



河西訓導(河西哲英先生)

脈々と献花式

五月二日、都田川を望む小高い丘の上にある「河西訓導殉職記念碑」の前に色とりどりの花を手にした子どもたちが神妙な顔で整列していました。

居並ぶ子どもたちをすっぽり包むかのように覆いかぶさる木々の枝は強い日差しを遮っているようでした。ところが間を縫って差し込む陽光はまるでライトアップでもしたかのように碑をくつきりと浮かびあがらせていました。

荘厳な雰囲気の中で、黒の礼服の校長先生が碑に向かって九十六年前に大水に流された子どもを救った河西訓導の偉業をたたえる式辞の声が静かに子どもたち

の頭上を流れていきました。続いて、子どもたちが家から持ち寄った数輪の花が個々に碑に備えられていました。

時は流れ、遠いできごとになってきましたが、忘れてことなく語り伝えてきた学校の姿勢は子どもたちの心に命の大切さを植え付けているようでした。

義務教育の中でこうした厳肅な雰囲気を味わうことのできる学校はあまりないだろうと思いました。



教え子を手けて殉職

今から九十六年前の昭和二(一九二七)年五月三日は朝から激しい雨が降っていました。

都田尋常小学校では学区の真ん中を流れる都田川の水があふれ始めているとい

うことを聞いたので、子どもたちは方面ごとに先生の付き添いで帰し始めました。東部方面では役場を過ぎた坂の下の沢に都田川の水が逆流し始め、水田は海のようになっていました。班毎に先生が引率して水びたしの道を歩いていると六年生の女の子が水に流されてしまいました。

それを見た河西訓導は水に飛び込んで助けにいきました。やつとの思いで、その子を脇に抱えて岸に近づき、助けにきた先生の前で力尽き、命を落とされてしまったのです(三十七歳)。

災害伝承碑に指定されて

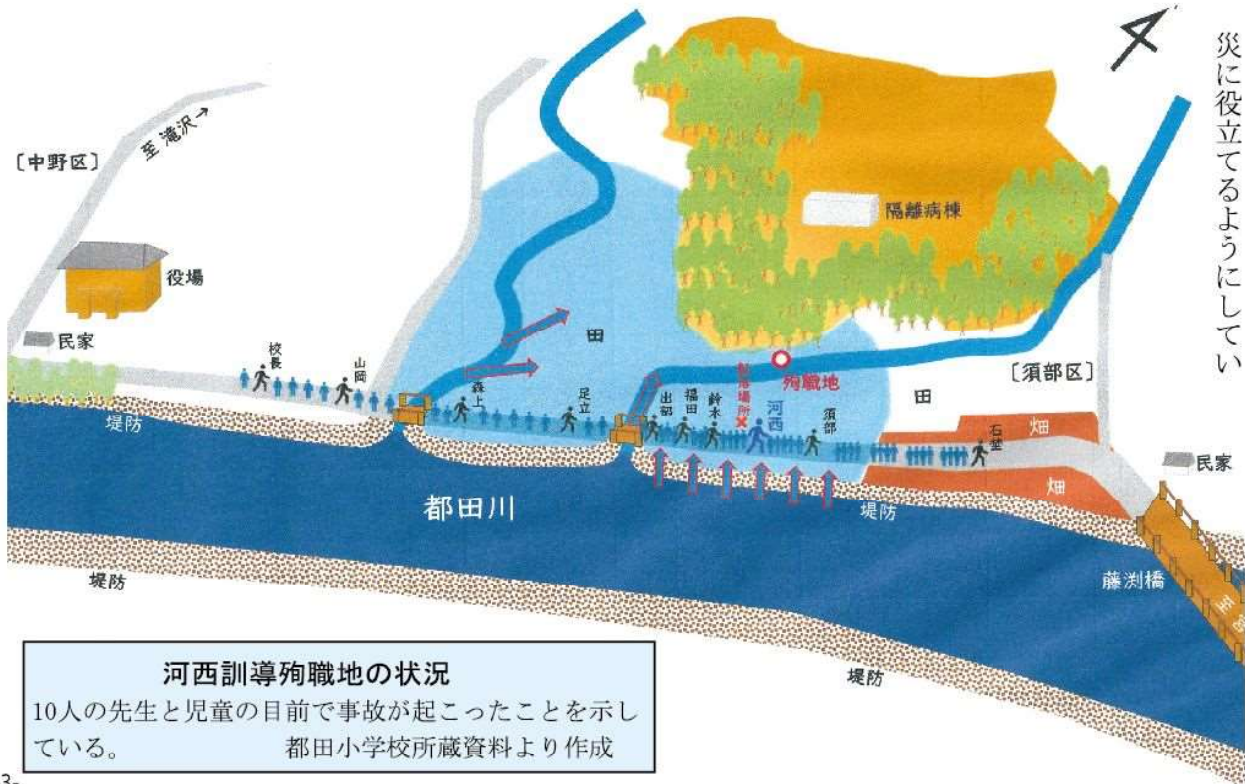
昨年度、この殉職記念碑が国土地理院から「災害伝承碑に指定されました。

過去に水害や津波で多く犠牲者を出した地区にはその時の様子や教訓を刻んだ石碑等がありますが、設置された意義を知らないで同じような悲劇が繰り返されました。

これを踏まえて国土地理

院では地形図等に「災害伝承碑」を掲載することで防災に役立てるようになっています。

ます。浜松市の認定文化財にも認定されました。



河西訓導殉職地の状況

10人の先生と児童の目で事故が起こったことを示している。都田小学校所蔵資料より作成

編集 浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会・発行 浜松市 電話〇五三一四五七一一二四六六

令和4年度に認定された「浜松地域遺産」は104件、7年間の累計659件となった。昨年度認定のうち、無形民俗文化財は、つぎの4件である。



千日堂の念仏（北区細江町）
宝永年間から続くという老ケ谷の千日講。現在でも毎月九日に地域の人々が集まって開催している。なお、同所の阿弥陀如来坐像と聖観音立像も同時に有形民俗文化財に認定された。



伊目の精霊流し（北区細江町）
毎年八月十六日の夜に、浜名湖北東・伊目の入江に灯籠を積んだ船を出し、伊目の湾奥まで灯籠を流す。盆踊りの人々が湖畔の「観世音」の石碑の回りに集まり、盆送りの供養をする。

令和四年度に認定された「浜松地域遺産」のうち、無形民俗文化財四件を紹介します



無形民俗文化財の認定は、この4件を加えて累計46件となった。ほかの種別では、令和4年度に、神久呂の民話が記憶遺産として初めて認定された。



根堅祭典（浜北区根堅）
毎年八月二十六日に、岩水寺の大神輿と山住神社の小神輿が地域の屋台とともに渡御する。なお、山住神社境内が史跡に、同御旅所が有形民俗文化財に認定されている。

西見寺の初午（西区西鴨江町）
かつてこの地にあつた花学院で行われていた初午が西見寺に引き継がれている。徳川家康が三方ヶ原の戦いで武運と馬の健康を祈願したことがはじまりとされ、毎年三月第一土・日曜日に開催されている。



名称	所在地
有玉神社の流鏝馬神事	東区有玉南町
松之浦神社の注連縄	東区松小池町
中野町の煙火	東区中野町
賀久留神社の神幸祭	西区神ヶ谷町
息神社の田遊祭	西区雄踏町
舞阪の太鼓祭り	西区舞阪町
雄踏歌舞伎万人講	西区雄踏町
金指市神様の祭祀	北区引佐町金指
東久留女木の万歳楽	北区引佐町東久留女木
細江神社の祇園まつり	北区細江町賀賀
浦川歌舞伎	天竜区佐久間町浦川
佐久間神の舞	天竜区佐久間町中部
八幡神楽	天竜区水窪町奥領家
雄踏町山崎の百万遍念仏	西区雄踏町
金折津島神社祇園祭(ヨイト)	南区金折町
水窪まつり	天竜区水窪町奥領家
浜松秋葉神社の管粥祭	中区三組町
芋掘神楽	天竜区佐久間町奥領家
松島神楽	天竜区佐久間町相月
鹿島の花火	天竜区二俣町鹿島
二俣まつり	天竜区二俣町二俣
笠井町春日神社の神輿渡御	東区笠井町
馬門の神楽	北区引佐町奥山
奥山の手筒花火	北区引佐町奥山
金刀比羅神社巫女神楽	北区引佐町小斎藤
水窪の祇園祭り	天竜区水窪町奥領家
水窪の削り花	天竜区水窪町奥領家
蒲神明宮の御田打ち	東区神立町
蒲神明宮の庭上座礼	東区神立町
蒲神明宮の神楽	東区神立町
初生衣神社おんぞ祭り	北区三ヶ日町岡本
横山八幡神社の祭礼	天竜区横山町
瀬尻のぶか風	天竜区瀬尻町
大安寺の西の市	中区香町
宝珠院の海苔供養祭	西区舞阪町舞阪
井伊谷二宮神社の先囃子	北区引佐町井伊谷
和泉及び鮎釣の神楽	天竜区佐久間町大井
西大山の初午祭	西区大山町
浜松海岸の浜おり(浜こり)	西区・南区沿岸部
旧井伊郷の地の神祭祀	北区滝沢町引佐町
椎ヶ脇神社の神輿渡御	天竜区二俣町鹿島
西見寺の初午	西区西鴨江町
伊目の精霊流し	北区細江町伊目
千日堂の念仏	北区細江町賀賀
根堅祭典	浜北区根堅